

中国籍留学生の名前の表記をめぐる留学生教育の課題

—在日中国籍モンゴル民族青年の事例を中心に—

ZHAO MEIRONG (趙梅榮)

キーワード：名前の表記／在日中国籍／モンゴル民族

要旨

本論の目的は、在日中国籍モンゴル民族青年の名前の表記への聞き取り調査から、彼らが抱えているアイデンティティの揺らぎを描くことを通じて、中国籍留学生の名前の表記をめぐる課題に光をあて留学生教育に貢献することにある。

在日中国籍モンゴル民族の中には来日以後、名前を漢字で表記せず、カタカナやローマ字で表記する人が散見される。そこで、本論では、①漢語の名前をカタカナ表記する、②漢語の名前を意識してカタカナ表記する、③漢語の名前を使わず、自分でモンゴル語の名前を名付けて、カタカナ表記する、の3つのタイプの中国籍モンゴル民族青年を対象に、3名がどのようなアイデンティティの揺らぎを持っているか、その背景とゆらぎの変化を描き出す聞き取り調査を行った。

先行研究をもとに、以下の5つの分析軸を設定し、調査を行なった。

- ① 来日以前の名前に対する意識と背景
- ② 来日以後の名前に対する意識と使用場面
- ③ 日本人と接した時の名前の使用状況と意識
- ④ モンゴル民族同士間での名前の使用状況と意識
- ⑤ 中国の漢民族/他の少数民族と接した時の名前の使用状況と意識

以上の分析から、在日中国籍モンゴル民族青年たちが自己形成の中で名前にどう向き合っているかを明らかにした。従来、中国籍留学生の名前の表記をめぐる研究は少なく、そこにあるアイデンティティの揺らぎとその背景を描き出したのは本研究がはじめてである。こうした外国にルーツを持つ在日中国籍モンゴル民族青年の名前に対する葛藤やアイデンティティの揺らぎを描くことで留学生教育の発展にも有効な視点を提供すると考える。

1. 問題の所在

2020年12月の法務省在留外国人統計¹⁾によると、日本に滞在する中国人は801,357人であり、国籍・地域別では首位を占めている。来日している中国人には単に漢民族だけではなく、55の少数民族として認定された人々も存在する。例えばチベット族、朝鮮族、モンゴル族、苗族などがある。しかし、中国の少数民族は中国籍として一括りでカウントされているため、日本に滞在する個々の少数民族の数は具体的には把握しにくい。とはいえ、筆者の見聞からすると、モンゴル民族は数千ののぼり、一世に当たる在日中国籍モンゴル民族のみならず、二世で日本で生活している人も多いのが現実である。

中国籍モンゴル民族²⁾は中国において少数民族として認定されている。言語、文字、文化など民族固有の特色を有している。この中で名前は一般にモンゴル語で考えたモンゴル風の名前を名付ける。しかし、内モンゴル自治区出身の一部のモンゴル民族には、漢語の名前を名のる人々がいる。日本に滞在する中国籍モンゴル民族においても、そのような名前をもつ人々がいるが、彼らは日本という異文化に接触した後、中国にいたときにはそれほど意識しなかった自分の名前に対して葛藤したり、疑問に思ったりする。日本社会で生活するようになると、新しい環境や初対面の人と出会うときは自己紹介する場面が多くなる。

例えば、筆者はモンゴル民族であるが、名前は漢語の名前を持つ。名前で自分の出自を表すことができず、中国人かつ漢民族の人であると認識されるのが常である。モンゴル民族であるにも関わらず、名前が漢族風の名前であるために漢民族と間違われてしまうということで葛藤が生まれるのである。一方、来日前については、モンゴル語の名前であれ、漢語の名前であれ、同じく内モンゴル自治区にいるという共通の意識からは

漢族風の名前であってもモンゴル民族であることに揺らぎを感じることはなかった。つまり、自分の出自を疑うような状況や環境がなかったのである。内モンゴル自治区のモンゴル民族の名前は漢語の名前であっても、漢民族の名前とある程度違いがあって、同じくモンゴル民族から見ると、漢語の名前だが、モンゴル民族であるということがわかるため、名前に対して葛藤や疑問とかは生まれなかったと推測される。来日後異文化に接触したことをきっかけに、人と接触する時に名前に対して自分はモンゴル民族で、漢民族と認識されたくないという自己認識から生まれると思われる。つまり、来日以後初めて名前を意識し自分の出自を再確認するきっかけとなっているのである。

本論で事例として取り上げた在日中国籍モンゴル民族は、中国国内では少数民族として認定され、自分の言語や文字や文化を持ち、民族教育などが行われている。彼らはモンゴル国のモンゴル人とも異なった社会的・歴史的背景を持つ民族であるにもかかわらず、日本社会において、モンゴル民族と言うと、モンゴル国のモンゴル人と区別されずに同一視されることが多い。一方で、漢語の名前を持つ中国籍モンゴル民族が名前を名のった途端に漢民族の人と見なされることが常である。従って、本論では、モンゴル国のモンゴル人ではなく、中国の少数民族の1つであるモンゴル民族という特殊性を持つグループの事例を取り上げることにした。

2. 先行研究

留学生教育において、留学生たちの日本語習得や異文化体験などに関する研究が多く見られる。または外国にルーツを持つ子どもの異文化接触が主な課題として研究されてきたが、留学生の名前の表記に着目した研究は少ない。しかも、留学生の名前の表記をめぐるアイデンティティの揺らぎに焦点を当てた研究はない。

日本において、名前に焦点を当てた研究は主に、在日コリアンの通称名と本名を名のることに関する研究が多く見られ、最近では日系ブラジル人（ハタノ 2009）や在日ベトナム人の名のり（藪田 2013）についての研究がある。竹尾・矢吹（2006）は日本に中長期在住する外国出身者7名を対象にインタビュー調査を実施し、エスニック・アイデンティティの視点から日本における名のり行動とその関連要因について分析している。このようにエスニック・アイデンティテ

ィの視点から考察している研究が多い。一方、名前に関する研究がある。その一つである子安増生（1988）の研究では、名前は個人の誕生とほぼ同時に定まり、その個人を特定し、代表する一つの記号として頻繁に使用されるものであり、長期に渡って使用されるうちに単なる記号として受け止められるのではなく、愛着感をはじめとするさまざまな感情が名前に付随するようになると指摘している。中国人留学生の名前の漢字表記を事例として取り上げている研究としては岡益巳（2010）の研究がある。岡は「留学生相談指導担当者の視点から中国人留学生の名前の漢字表記と読み方に関する実証的研究」において、岡山大学における中国人留学生の名前の表記に関する問題点を提起するために、留学生名簿にみる中国人留学生の名前の表記方法の実態を明らかにした。岡山大学において2009年の国際課の留学生名簿に記載されている415人の名前の記載方法を点検してみた結果、中国人の名前は①漢字の表記、②フリガナ、③ローマ字の3種類で記載されていて、漢語の表記に着目して分類すると、日本語の漢字、日本語の漢字と簡体字の交ぜ書き、日本語の漢字とカタカナの交ぜ書き、漢字なしのカタカナ、漢字なしの中国式ローマ字の5通りであると指摘している。岡の研究は、中国人留学生は名前を正しく表記すべきだということを主張していて、どういうきっかけで、どういう思い出でそういう表記するようになったかまでには至らなかった。しかし、中国籍の少数民族の名前は母語の発音に基づいてフリガナを振ることを認めるべきであり、ローマ字表記に関しても例外的に中国式ではないことがあり得ると述べていることには同感する。

以上のような先行研究を踏まえ、本研究では在日中国籍モンゴル民族の名前の表記に焦点をあて、彼ら抱えている悩みやアイデンティティの揺らぎを描いていく。

3. 研究方法

(1) 調査対象者の選択

在日中国籍モンゴル民族でありながら、公的な証明書などでは漢字表記の名前だが、日常生活では漢字の表記を使用していない人に限定した聞き取りを試みた。予備調査では7名に聞き取り調査を行なったが、漢語の名前をそのまま葛藤を抱えず使用していた人や漢民族と結婚してむしろ漢族風の名前を当然視する人もいて、多様であることがわかった。その中で、本調査の

対象とはならない人を除き、「漢語の名前をカタカナ表記する」「漢語の名前を意識してカタカナ表記する」「漢語の名前を使わず、自分でモンゴル語の名前をつけ、カタカナ表記する」している3名を対象とした。また、対象者は中国内モンゴル自治区出身に限った。というのは、同じ中国国内に居住するとはいえ、地域により生活環境や漢民族との混ざり度が大きく違うことから、同じ社会・文化的な背景を持ち、集住する内モンゴル民族出身のモンゴル民族を対象として選んだ。

調査対象者のプロフィールは表1の通りである。

表1 調査対象者 (データは2019年10月現在)

名前(仮名)	年齢	日本滞在年数	身分	性別	来日時の留学形態
紅霞*	30代	7年	独身	女性	大学院生
包彩虹**	20代	3年	独身	女性	大学生
アランチチゲ***	30代	10年	独身	女性	大学院生

*紅霞＝漢語の名前をカタカナ表記(ホンシャ)

**包彩虹＝漢語の名前を意識してカタカナ表記(ソロンガ)

***アランチチゲ＝漢語の名前を使わず、自分でモンゴル語の名前をつけ、カタカナ表記

(2) 調査対象者の背景

【紅霞さんの背景】

紅霞さんは日本の国公立大学に所属している。彼女の名前は漢語の名前で、姓はあるが使用していない。家族のほかのメンバーが姓を登録しているものの、彼女は姓に対して拒否意識があるとのことである。戸口簿、身分証明カード、パスポートなどの中国より発行された証明書など全部漢字で登録している。日本国により発行された在留カードには漢字で登録し、学生証ではカタカナで登録している。

【包彩虹さんの背景】

包彩虹さんは3年前に高校卒業後、日本語学校への留学のため来日した。現在は、日本の大学で勉強している。中国で発行された公的書類、戸籍簿、身分証明書などでは漢語で名前を記入している。来日以後には漢語の名前の意味を翻訳してローマ字で表記するようになった。

【アランチチゲさんの背景】

アランチチゲさんは日本に来て10年が経つ。中国で大学を卒業した後に来日した。来日後は日本の大

学院に進学し、日本語教育を専攻して博士前期課程を修了した。現在は日本の会社で働いている。彼女は中国にいるときには、名前は漢字の名前だったが、日本に来てからは、小さいときに家族の中で呼ばれていたモンゴル語の名前を使うようになった。語りによると、今の会社での書類などでは全部モンゴル語の名前を使っている。

(3) 面接期間と方法

本論の面接にあたって、調査目的を対象者に伝え、了解を得て面接内容をレコーダーで録音をした。面接結果については匿名で公表することを伝えた。面接時間は1時間から1時間半程度で行った。場合によって2時間以上の面接もあった。面接期間は2019年10月半ばから11月末までである。面接場所は対象者の希望により、喫茶店や対象者の大学であった。面接は主にモンゴル語で行ったため、録音したデータをまずモンゴル語で文字起こしし、次に日本語訳にした。面接内容は大まかな生活史について聞き取ったのち、日本に来てからの経験およびそれに伴い自分の名前への感情や意識の変化、名前の使用状況などについて、聞き取り調査をすすめた。

(4) 倫理的配慮

研究対象者に対し、研究の目的や内容、拒否の権利などを文書および口頭で説明を行った。また、聞き取りのデータを使用した論文を執筆することの合意を得て、調査対象者を特定できないように仮名で記すことの合意を得た。

4. 結果

(1) 来日以前の名前に対する意識と背景

紅霞さんは中国にいるとき高等教育を受け、大学を卒業後高校の教師になった。最初は自分の名前が漢字であることにあまり違和感を覚えていなかった。周りには漢語の名前を持っていた人がたくさんいたからである。しかし、高校の先生になってから初めて「モンゴル語の名前ありますか」と聞かれて、自分の名前に違和感を覚えるようになった。それで、自分の漢語の名前をモンゴル語で意識して言うようになった。例えば「金山」という名前の人が、それをモンゴル語で意識して「アランアグラ」と呼ぶようになる。それ

以後は人にモンゴル語の名前があるかどうかを聞かれたらそれを言うようになった。紅霞さんは自分の名前について特別な感情を持っていて、自分の本名をあまり使いたがらない。他人に名前だけで個人が特定されてしまうから、それを嫌がっていたとのことである。また、紅霞さんは公的な証明書などではすべて名だけを使っている。

姓は使ってないです。「宝」という姓です。故郷では戸籍簿に登録するときあまり(姓をつけることにに関して:筆者注)気にしてなかったみたい。当時は名前だけ登録したり、名前と姓を両方登録したりする人もいるけれどね。この点について、自分もよくわかりません。たまたま、父親が姓を登録してないから、子どもも登録しないと、両親は(姓を:筆者注)登録しているけれども、子どもの姓は登録していない例もあるよね。姓をつけて呼ばれることが心より嫌いです。自分でも姓をつけるのが大嫌いです。

【2019年10月24日 紅霞さんの聞き取り調査より】

当時は戸籍に登録するとき村の幹部たちが勝手に漢字を当て、名だけを伝えられ、そのまま登録していたということである。このように、紅霞さんは自分の姓を使いたくなくなり、この経験が日本での生活にもつながっている。紅霞さんの語りによると、中国にいるときから自分の名前に関して好き嫌いという感情は持っていた。また、戸籍簿に登録するとき姓と名の欄に姓名を適当に登録されていたことから、当時の政府は戸籍についての意識が欠如していたことがわかる。

包彩虹さんの語りを見てみよう。包彩虹さんは来日以前は、高校まで民族学校に通い、高校卒業後に来日した。彼女は民族学校に通っていたが、周りには漢語の名前の人が多かったために、なぜ自分の名前はモンゴル語の名前ではないのかと疑問に思ったことがなかったことがわかる。また、彼女の生活していた環境には多くの漢民族の人が住んでいることがうかがえる。漢語の名前で呼ばれることに慣れてきたことから、モンゴル民族でありながらも漢語の名前を名乗ることに違和感を覚えていなかった。名前というものの自体を気にしていなかったと思われる。包彩虹さんは来日以前の名前に対しての意識については以下のように語っている。

来日以前には、友だちや家族には漢語の名前で呼ばれていました。慣れていました。周りがこういう(モンゴル民族だけ漢語の名前:筆者注)名前の人が多

かったため、何にも思っていなかった。戸口簿や身分証明書では全部漢語の名前で登録していたから、何も意識していなかった。普通だと思っていました。

【2019年11月19日 包彩虹さんの聞き取り調査より】

このように、彼女の生活環境において、人々が漢語の名前に違和感がなく、当たり前のように思っていた。実は、これは、包彩虹さんのみの特別な意識ではなく、現在の中国籍モンゴル民族に共に共通している意識であるともいえる。漢民族と同じ環境で生活していることがモンゴル民族の名前に対する意識にも非常に大きな影響を与えているということがうかがえる。

アラタンチゲさんは中国にいるときには、漢語の名前を使用していた。当時、名前というものにはっきりした好き嫌いはなかった。ただし、少し関心を持っていたことがうかがえる。学生時代のことを振り返って語ってくれた際、ずっと漢語の名前で暮らしてきたにも関わらず、現在はあまり漢語の名前で呼ばれなくなってきたと言う。また、モンゴル民族の名前には中国の戸籍簿に登録するときの記入のし方が大きく左右していることも分かる。家族の間ではモンゴル語の名前で呼び合っているのに、正式な書類などになると戸籍簿の通りに記入しないとしない。

以下のように述べている。

来日以前は実は自分の名前に関しては疑問に思うほどではなかったけど、多少、モンゴル語の名前と漢語の名前があるね、とは思っていました。だって、学校に行く前に家族の間ではモンゴル語の名前で呼ばれていたのに、学校に入学してからは戸籍簿に登録している漢語の名前を使うようになった。うん、ずっと漢語の名前で暮らしてきたよ。今でも国内にいる友達や小・中・高のクラスメートたちには漢語の名前しかわからない。一時帰国するときいつもそうだよ。漢語の名前で呼ばれたときにたまに反応しなくなっちゃう。ふふ、しばらく呼ばれてないから。または自分もあまりそう呼ばれたくないしね。

【2019年11月24日 アラタンチゲさんの聞き取り調査より】

(2) 来日以後の名前に対する意識と使用場面

紅霞さんは来日して6年目になる。来日以後名前をカタカナ表記にしている。カタカナで表記するようになったきっかけは、大学に入学し、国際センターに在籍登録する時のことである。在留カードでは漢語の名

前を表記していた、職員が在留カードを見てすぐ、「中国人の方ですね」と言われたことが彼女の心に響いた。そこで、学生証では名前をカタカナで表記するようにしたということである。モンゴル語の名前に日本語の発音を当てはめるとそのままモンゴル語の音と全く同じになる。普段はカタカナで表記し、姓は使用せず、名前だけを使用している。しかし、日本では姓で呼び合うことが多いので、日本人は紅霞さんの名前を分けて、名前の頭字が姓として呼ばれ、後ろの文字が名前として呼ばれることが多いという。

来日以後は「ホンシャ」になってしまった。ホンシャと呼ばれるのがすごく気に入っていますね。ホンシャと呼ばれると日本人は珍しい名前ですねって言ってくれます。そうすると自分もそうですねって嬉しく思います。実は漢字を使ったら、名前の意味が伝わるけれども、正式場面だけで漢字を使って、日常的には漢字で書かれた名前を使っていません。学会発表ではきちんと漢字で名前を書けどね。

【2019年10月24日 紅霞さんの聞き取り調査より】

来日後紅霞さんは姓をほとんど使わず、名前の一部が姓になり、一部が名前になっている。しかし、名前が分けられたことに対しては嫌ではなく、逆に気に入っている。紅霞さんの話から、漢字表記を使わないことで、どこの人か見分けることができないため嬉しく思っている様子であることが伺える。つまり、中国人＝漢民族として特定されないため満足しているとも感じられるのである。

包彩虹さんは来日以後に自分の名前を意識するようになった。自分の名前が漢語の名前だから、日本で出会った人々に、モンゴル民族なのになぜ漢字の名前なのかと言われたことを契機に漢字の名前を意識しローマ字表記を使用しているという。来日以後の名前に対する意識について次のように述べている。

来日以来、名前について他の人に理解してもらいにくく、自分は中国の内モンゴル民族だと言っても納得してくれない。なぜ、なぜですかって、ほかの人がなかなか納得してくれない。よく、「モンゴル民族だったらモンゴル語の名前あるでしょう。なぜモンゴル語の名前を使わないですか」などの質問がされます。本当に困ったものですね。最初は私は日本ではパスポートに書かれてある漢語の名前を使っていた。説明するのが面倒くさいから、漢語の名前を使っていた。現在は意識して使用しているけれどね。

【2019年11月19日 包彩虹さんの聞き取り調査より】

包彩虹さんの話によると、漢語の名前だから、ほかの人が中国人としてみるものの、漢字の名前であるため、漢民族として意識されてしまう、自分の出自が表れていないと感じている。中国籍だけどモンゴル民族ですよ、という真の自分が表れていないように感じられるということである。また、自分のことをモンゴル民族だ、と披露したら、逆に他人には理解されにくくなる。一連の質問や疑問にあう。自分の名前のせいでこういうことで悩んだり、苦労したりすることになる。このような経験から、包彩虹さんは一連の煩わしいことを避けるためにパスポートに書かれている漢語の名前を意識してカタカナを使用している。

アラタンチチゲさんは、来日後名前について疑問に思うようになり、小さいときに使っていたモンゴル語の名前を復活させたという。モンゴル語の名前を気に入っているように思われる。漢語の名前はどのように使わなくなったかと聞くと、漢語の名前は欲しくないと述べた。モンゴル語の名前を使うようになったきっかけについては、日本では外国人であるため、カタカナ表記にした方が発音しやさいだろうと日本社会に合わせているということである。

自分の名前を疑問に思うようになった。自分の名前は漢語の名前だったんですが、でも小さいときにモンゴル語の名前もあって、日本に来てからは小さいときに使っていたモンゴル語の名前を使っています。いま使っている名前は大好きです。漢語の名前は欲しくありません。来日後は名前を「アラタンチチゲ」とカタカナ表記する場合があります。それは「外国人」であるモンゴル民族の名前は日本人にすぐに発音できないから。それと「郷に入れば郷に従え」と考えたから。

【2019年11月24日 アラタンチチゲさんの聞き取り調査より】

(3) 日本人と接した時の名前の使用状況と意識

紅霞さんは日本人と接した時の自分の名前について詳しく説明する。これは名前からでは紅霞さんの出自が他者には伝わらないという理由によるものである。つまり、紅霞さんは日本人を相手にしているときは丁寧に名前を紹介することを通して、自分がモンゴル民族であることを表現しようとしている。紅霞さんは名前がアイデンティティを表すことができず、自分から相手にモンゴル民族であることを伝えるように意識している。

日本人と出会ったときに姓は何と言うか、名は何と言うかなどを詳しく説明するよ。これは日本人を相手にしているから、説明しないと日本人の中には内モンゴルのモンゴル民族だということがわからない人がいる。私は中国人で、名前も漢語の名前だけれども、モンゴル民族ですと説明します。どうして漢語の名前かというのも説明します。

【2019年10月24日 紅霞さんの聞き取り調査より】

包彩虹さんは日本人を相手にした時には、漢語の名前で自己紹介をしている。やはり名前だけでは、モンゴル民族であることが表現できていない。これについては残念がっていたが、日本人と親交が深まるとモンゴル民族であることが日本人にわかってもらえるそうである。自分からモンゴル民族だと言いつけなくても、何かから、漢民族の人と違うというのがわかるようである。自分の名前が自分の出自を表していないことに関しては、包彩虹さんはすごく残念なことだと言っているが、「親から名づけられたものだからどうしようもない」とも言って、このような現実を受け止めていると感じられた。包彩虹さんは気持ち的には漢語の名前を持っていることに対する嫌悪感はなかった。逆に制度上ではこうだから、受け入れるしかないという姿勢をとっていた。それについて次のように述べている。

日本人にはパスポート上に書いてある漢語の名前で紹介します。名前を聞いて私がモンゴル民族であることはわからない。いつも中国人ですね、と言われます。でも時間がたつとモンゴル民族であることがわかってくる。なんでかわからないですけど、付き合う中でモンゴル民族であることがわかってくる。

筆者：自分の名前がモンゴル民族であることを相手に表すことができないことに対してどう思いますか。

包彩虹さん：うんーすごく残念だと思いますよ。でもさ、親が名付けてくれたものだからしょうがないですよ。

【2019年11月19日 包彩虹さんの聞き取り調査より】

アラタンチゲさんは日本人と出会ったときにその場やその場の雰囲気により名前を使い分けていることがわかる。常に使い分けているわけではなく、正式な場面では自分がモンゴル民族であることを強調している。生活面では、相手が誰であろうがあまり気にしていないように見える。

日本人と接する場合に雰囲気にもよるが、自己紹介する際、モンゴル族であることを強調する場合もあ

る。あとは場合にもよりますが、同年代の人か、先輩の人かにもよります。例えば、同じ年代の人でバイト先だったらそんなに強調はしてなかったよ。逆に、学校にいるとき結構モンゴル民族ですと言っていた。

【2019年11月24日 アラタンチゲさんの聞き取り調査より】

(4) モンゴル民族同士間での名前の使用状況と意識

日本ではモンゴル民族同士では姓を使っていませんよ。名だけです。けど、内モンゴルの人だとモンゴル民族というのがわかる。だから、何も心配せずに名前を言いますよ。私は「紅霞」ですって。モンゴル民族と出会って相手がモンゴル語の名前を持っていたら羨ましくは思わない、いい名前だねとは思いますが。あとやはり、モンゴル語の名前だから、モンゴル民族だねーとは思う。

【2019年10月24日 紅霞さんの聞き取り調査より】

紅霞さんはモンゴル民族同士の時は何も心配することなく、ありのまま自分の名前を言えていることがわかる。モンゴル語の名前を持っている人に対しても羨ましく思わずそのまま受け入れている。自分が漢語の名前だとか自分を責めている感情もなかったように思われる。どのような名前であれ、紅霞さんは相手がモンゴル民族である限り安心してどのように伺える。

包彩虹さんの名前は漢語の名前であり、一応意識したらモンゴル語の名前になるのだが、身分証明書などの公的なものでは漢語の名前で表記しているので、ほとんどの場面で漢語の名前を使用している。そして、モンゴル語の名前を持っている人に対して羨ましく思っている。モンゴル語の名前だとモンゴル民族であることがわかるし、名前に対していちいち説明しなくて済むことになる。モンゴル民族という出自にもかかわらず漢語の名前をもっていることを嫌がっているわけではないと感じられた。モンゴル民族同士ではモンゴル語の名前であれ、漢語の名前であれ、安心して、ありのままいけることが読み取れる。これに対しては以下のように述べている。

漢語の名前を使っています。でも自分が漢語の名前だから、ほかのモンゴル語の名前を持っている人を羨ましく思います。だって、私みたいにいちいち説明しなくても他の人にはがモンゴル民族であることがわかってもらえるし。でもさ、私の名前もモンゴル民族

にしかない名前だから、モンゴル民族だとすぐわかってしまう。

【2019年11月19日 包彩虹さんの聞き取り調査より】

アラタンチチゲさんはモンゴル民族と出会ったときに、来日する以前の名前で自己紹介している。中国内にいたときに住んでいた地域は漢民族と混住地域であったために、漢民族の名前をもっていることが普通であった。そのような地域に住んでいたから漢民族の名前であることを自然に受け入れている。一方、この漢語の名前は自分がモンゴル民族であることを表現できていないと確信している。モンゴル民族である以上はモンゴル語の名前が欲しいという語りからは、名前に対するモンゴル民族としての強いこだわりをもっていることがわかる。

漢語の名前通りの呼び名だが、私の住んでいる地域は漢民族も混住しているため、不思議ではない。だが、モンゴル民族である以上、モンゴル名がほしい。名前は私がモンゴル民族であることを表現できていないと確信しているが、周りから見てそう思われているとは限らない。

【2019年11月24日 アラタンチチゲさんの聞き取り調査より】

(5) 中国の漢民族/他の少数民族と接した時の名前の使用状況と意識

姓を使用していないため、漢民族の人が私の名前を聞いたら、珍しい名前ですねって、私に聞きます。漢民族には「紅霞」という名前はないし、名前を見て聞いて、漢民族の人ではないよねーと。仲がいい人だと名前の由来とか、名前の意味とか説明してあげるけど、そうじゃない人には名前の意味とか、漢民族とか、モンゴル民族とか全然説明しないよ。気にもしないよ。職場ってさ、仕事の仲間は建前の関係じゃないですか。深い仲じゃないから、自分の名前について丁寧に説明する必要はないと思うよ。学会発表とか自己紹介の時はちゃんと、まじめに説明しますが。

【2019年10月24日 紅霞さんの聞き取り調査より】

紅霞さんの話から漢民族と出会っても姓を使わず、名前だけを使っていることがわかる。名前は二文字から形成されているが、漢民族の名前にはあまりない漢字を使った名前である。漢民族の人には紛らわしい名前であるために、名前では彼女の出自がわからないが、それでも、漢民族の人には名前の由来や、名前の意味

などを説明しようとも思っていない。このように、紅霞さんは名前を特別に表記することで、自分が漢民族ではないことを表現している。

包彩虹さんは漢民族の人と会った時には漢語の名前で自己紹介をしている。その名前からは彼女がモンゴル民族であることが表されていないものの、漢民族とは異なるというのが表現できている。または、漢民族の人にモンゴル民族というのを打ち明けた時に漢語の名前を訳してモンゴル語の名前として教えることにしている。この話の内容からはモンゴル語の名前は常時使っているのではなく、聞かれたら使用しているということがわかる。

漢民族には私は漢語の名前を言います。モンゴル民族の名前って漢語の名前でも漢民族の名前と違うじゃないですか、だから、私の漢語の名前を聞いたら、一応確認をします。あなたは中国人ですか。そうすると、私はモンゴル族ですよと言います。モンゴル語の名前はないですかと聞かれたら、モンゴル語の名前を言ってあげます。モンゴル語の名前は漢語の名前を意識したものです。

【2019年11月19日 包彩虹さんの聞き取り調査より】

アラタンチチゲさんは漢民族の人と出会ったときにもモンゴル語の名前で自己紹介をしている。漢民族の人にこういう名前について聞かれたことがないと語っていることから、漢民族に対して自分がモンゴル民族であろうと、漢民族であろうと、気にしていないように感じた。同じく中国人というルーツを思っているからであると思われる。

モンゴル族であるとわかっている漢民族は、名前の由来を聞かない。中国の漢民族の人々には名前について疑問に思っていないかもしれない、特に聞かれたことがない。学校にいる時、親しい漢民族の人は私の漢語の名前も知っているから、別にモンゴル語の名前を使っていることに対しても聞かれたことがない。初めて会った漢民族の人は、名前を聞くと、漢民族じゃないとはわかっているみたいだよ。でも、自分は聞かれたことがないね。

【2019年11月24日 アラタンチチゲさんの聞き取り調査より】

5. 総合考察

本論では、在日中国籍モンゴル民族青年3名の名前の表記とその使い方を、①来日前、②来日後、③日本

人と接した時、④漢民族や他の少数民族と接した時、⑤モンゴル民族同士間での使用という5つの場面に即してたずねて、そこでも意識のあり様を探ってきた。

そこで明らかとなったのは第一に、来日前と来日後の名前の表記と使い方が、異文化圏における他者と交流することで変化しているということである。来日前は少数民族自治区であったことや周りには同じく漢族風の名前を持っていた人がいたことで、自分の名前に対して疑問に思うことがなかった。しかし、来日以後に異文化圏における他者と交流することではじめて名前が自分の出自を表していないということに気づき、名前の表記を変えたりして、自分のアイデンティティを表出するように努力していることが描き出された。第二に、相手が日本人か否か、同じモンゴル民族かで、自分のアイデンティティを多様に再確認し、名前の表記や使い方を複雑にまた多様に使い分けている点である。その使い方は、一元的ではなく、場面場面、また自らの名前に対する意識により多様に変化させている。第三に、三者の名前の表記や使い方は三様ではあったが、共通して漢民族と接するときのモンゴル民族としての意志を持っている点である。モンゴル民族の名前で自己紹介するのはもちろん、漢語の本名で自己紹介するとしても、漢民族ではないことが明らかになることに対して、葛藤や揺らぎを感じていない。

本論では以上のような3点が明らかになったが、これをもとに中国籍留学生の名前の表記に関して、以下のことを提起しておきたい。

中国籍出身の留学生のなかに、名前をカタカナやローマ字で表記する学生たちが存在していることが岡(2010)の研究でも明らかになっているが、この中に少数民族という特殊性を持つ人々がいるということに注意を払うべきである。彼らに対して、名前の表記を変えたりしているのは単なる好みとか、軽い気持ちで表記しているのではなく、中国籍モンゴル民族の自分の自己認識が国境をこえてくることで生じているアイデンティティの揺らぎや葛藤が絡んでいるということに目を向けるべきである。または、このような多様性を持つ留学生が抱えている名前に対しての葛藤は単なる名前の問題ではなく、その背景にある民族間の複雑な事情があることも理解しておかないといけない。

本論で明らかにした留学生の名前の表記や使用をめぐる課題は単なる中国籍モンゴル民族が抱えている問題ではなく、多民族国家から来日している留学生

たちに共通する課題であると思われる。このような外国にルーツを持つ留学生の多様性を重視し、彼らの特殊性をどう活かしていくかを考えていくべきであろう。

注

1 法務省在留外国人統計

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00250012&tstat=000001018034&cycle=1&year=20200&month=12040606&tclass1=000001060399&tclass2val=0> (2020年12月11日アクセス)

2 中国における56の民族の一つであるモンゴル民族のことを指す。ただし、本論では内モンゴル自治区出身のモンゴル民族のことを言う。

○ 参考文献

- 岡益巳(2010)「中国人留学生の名前の漢字表記と読み方に関する実証的研究 —留学生相談指導員担当者の視点から—」『広島大学留学生センター紀要』第20号 61-74頁。
- 子安増生(1988)「自己の名前に関する意識 —女子大学生の姓名観—」『愛知教育大学研究報告 教育科学』第37号、143-159頁。
- 竹尾和子・矢吹理恵(2006)「在日外国人の名のり行動における関連要因の検討 —エスニック・アイデンティティ研究の一視点—」『発達研究』第20号、67-79頁。
- 藪田直子(2013)「在日外国人教育の課題と可能性—「本名を呼び名のる実践」の応用をめぐる—」『教育社会学研究』第92号、197-218頁。
- リアン・テルミ・ハタノ(2009)『マイノリティの名前はどのように扱われているのか—日本の公立学校におけるニューカマーの場合—』ひつじ書房